

2025年
10月
No.224

【理念】奉仕・信頼・進歩 当院は敷地内全面禁煙です。

県病ニュース秋号

超少子高齢化社会における医療体制の変革

～2025年問題と2040年問題とは～

院長
みやぐち ともや
つとむ
宇都宮 徹

や在宅医療の普及などの影響もあり、当初想定された「後期高齢者で病院が飽和状態になる」という最悪の事態は幸い回避されています。

次に訪れるのが「2040年問題」です。2040年は団塊

2025年は、約800万人もの団塊の世代がすべて後期高齢者（75歳以上）となる年です。病院が高齢患者であふれ、社会保障費が急増することが懸念され、「2025年問題」と呼ばれています。国はこの事態を見据え、2015年に「地域医療構想」を掲げ、入院病床の構造改革に着手しました。これは、病床機能を見直し、過剰な急性期病床を集約して、不足している回復期病床への転換を促す取り組みです。その後、構造改革の進捗は十分とはいえませんが、新型コロナウイルス感染症の流行による受診控え

ジュニア世代が前期高齢者（65歳）に達し、高齢者数がピークを迎える年です。この時、日本の高齢化率は35%に達し、国民の3人に1人が高齢者という、世界でも例のない超高齢社会となります。国はこれに備え、すでに「新たな地域医療構想」を掲げ、ガイドライン作成などを進めています。2025年から2040年にかけての人口構造の変化は、「高齢者のさらなる高齢化」と「生産年齢人口（15～64歳）の急減」です。特に、85歳以上で医療と介護の両方を必要とする方が増えること

への対応が、喫緊の課題となります。従来の「地域医療構想」は入院医療が中心でしたが、「新たな地域医療構想」では、外来や在宅医療、そして介護との連携強化が不可欠です。

一方で、2040年までに生産年齢人口は現在より約1,200万人（約2割）も減少すると見込まれており、これに伴い医療・介護分野の人材確保が一層困難となります。その結果、「医療・介護需要の拡大」と「深刻な労働力不足」という二重の課題が生じます。さらに、働き方改革の流れが加わっており、医療の質を保ちながら業務の効率化や医療DX（デジタル化）の推進も必然的に求められます。

このように、わが国の医療・介護はこれから大きな転換期を迎えます。当院は大分県の基

幹病院として、「新たな地域医療構想」の実現を積極的に進めるとともに、高度専門医療の最後の砦としての役割を果たしてまいります。そして、超少子高齢化社会に柔軟に対応できる新たな病院機能を地域の実情を踏まえて構築し、将来にわたって県民に安心な医療を提供し続ける所存です。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。



当院におけるロボット支援下内視鏡外科手術の現況



副院長 兼
手術・中央材料部部長 兼
がんセンター所長
ばんどう とし お
板東 登志雄

当院にロボット支援下内視鏡外科手術が導入されて丸2年が経過しました。大分県内の総合病院としては大分大学医学部附属病院に次いで2施設目の手術ロボット(Da Vinci Xi®: Intuitive Surgical社)の導入であり、2023年8月にまずは泌尿器科領域の前立腺全摘術がロボット支援下に実施されました。

先陣を切った泌尿器科領域では今年9月末までにロボット支援下の前立腺悪性腫瘍切除術105例、腎部分切除術50例、腎悪性腫瘍手術18例、尿管悪性腫瘍手術10例、腎盂形成術6例、膀胱悪性腫瘍切除術7例など総計196例にロボット支援下手術が行われました。

これまでは各診療科において通常の腹腔鏡(胸腔鏡)下手術が広く行われてきましたが、ロボット導入後は多くの術式がロボット支援下手術に置き換わりました。ロボット支援下手術の利点は、高精細な3次元画像の立体視、拡大視に加えて、鉗子の多関節機能や手振れ防止機能によって術者の手指以上の精緻さ、広い可動域で鉗子を操作できる点にあります。前立腺全摘術や直腸切除術などの骨盤深部の狭小な術野での安定した術野の確保ならびに高精細な4K画面を見ながらの繊細な手技(剥離、縫合手技など)が可能となります。ロボット手術機器の利点が最大限に発揮できる手術であり、手術を受ける患者さんの利益に大いに資するものとなっています。

婦人科領域においては、泌尿器科領域に次いで2023年11月から同手術が開始されました。これまでに早期子宮体がんに対する子宮悪性腫瘍手術が34例に行われ、今年8月からは子宮

良性疾患(子宮筋腫等)に対する子宮全摘術にも適応を拡げて計4例に行われました。

呼吸器外科領域においては、2024年3月からロボット支援下手術が開始され、これまでに縦隔腫瘍切除術が21例に行われ、2025年になつて肺悪性腫瘍手術にも適応が拡大され、9月末までに同手術が6例に行われました。

消化器外科領域においては、2024年6月から直腸がんに対するロボット支援下直腸切除・切断術が開始され、これまでに28例に同手術が行われました。2025年には結腸切除術にも適応を拡げ、これまでに12例に同手術が行われました。

診療科	週間手術枠	術 式	手術件数
泌尿器科	2枠(火・木曜日)	前立腺悪性腫瘍手術	105
		腎部分切除術	50
		腎悪性腫瘍手術	18
		尿管悪性腫瘍手術	10
		腎盂形成術	6
		膀胱悪性腫瘍手術	7
婦人科	1枠(月曜日)	子宮悪性腫瘍手術	34
		子宮全摘術(良性)	4
呼吸器外科	1枠(水曜日)	縦隔腫瘍切除術	21
		肺悪性腫瘍手術	6
消化器外科	1枠(金曜日)	直腸切除・切断術	28
		結腸切除術	12

ロボット支援下内視鏡外科手術の実績(2023年8月~2025年9月)

消化器外科領域では2018年4月に食道、胃、直腸がんに対するロボット支援下手術が保険収載となり、その後も膵臓・肝臓



コンソール(操縦席)に向き合う術者

領域、結腸がん、総胆管拡張症に対しても保険適用が拡大しています。消化器外科が対象とするほとんどの臓器においてロボット支援下手術が導入されるようになっていきますので、当院においても今年中に胃悪性腫瘍手術を開始して、順次適応を拡大していく予定です。

ト1台では年間200〜250例が限界と言われていますので、今後は2台目のロボット導入も検討すべき時期がくるものと思われます。

以上、導入後2年を経過して一般診療となりつつある当院のロボット支援下手術の現況について概説いたしました。手術手技の習熟度をさらに高めて、手術時間の短縮ならびに良好な術後経過が得られるようにこれからも引き続き努力していきたいと考えています。



4本のロボットアームと手術助手、介助看護師

手術支援ロボットの3つの構成要素 (Da Vinci Xi®)



ペイシェントカート



サージョンコンソール



ビジョンカート

セルフメディケーションとOTC医薬品について

今回はセルフメディケーションについてお話しします。セルフメディケーションとは「自分自身の健康に責任をもち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」です。セルフメディケーションは自身の健康管理に役立ち、医療機関を受診する時間や手間、費用を減らすことができます。

セルフメディケーションでは適度な運動、バランスのとれた食事など規則正しい生活を日頃から意識することが大切ですが、軽度の体の不調があるときにはOTC医薬品を利用することもひとつの方法です。OTC(Over The Counter)医薬品とは、医療機関を受診することなくドラッグストアや薬局で購入できるいわゆる一般用医薬品のことを指します。薬の成分の種類や含有量などの観点から、決められた使用方法(用法・用量)の範囲では比較的安全とされています。近年ではスイッチOTCという、医師が処方する医療用医薬品から一般用医薬品に切り替えたものも登場し、OTC医薬品の利用の幅が広がっています。



OTC医薬品は処方箋無しで購入でき、消費者にとっても便利な薬ですが、症状に合わせた的確な薬を正しく使うことが必要です。薬を購入する際にわからないことがあれば薬剤師や登録販売者に相談してください。

(薬剤部 薬剤師 小松 徳謙)



超音波検査(エコー検査)について

超音波検査とは、人の耳では聞こえないくらい高い周波数の音波(超音波)を利用した検査です。超音波は心臓などの体の中の臓器に当たると反射する性質があります。この反射した波(エコー)を画像に変換することで、体の外側から臓器の大きさや形、動きなどをとらえることができます。

また、対象が動くとエコーの周波数が変化すること(ドップラー効果)を利用して血流を観察し、心臓弁膜症や血管の狭窄、閉塞、血栓などを確認することもできます。

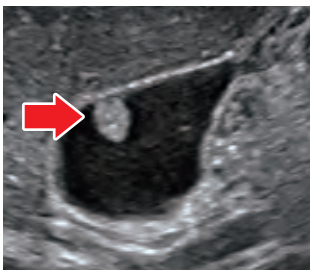
空気中では超音波は伝わりにくいので、機械と皮膚が密着するよう検査前に皮膚にゼリーを塗ります。検査は痛みを伴うこともなく、通常は20~30分程度で終了します。超音波は被爆の心配がなく人体に無害なため、安心して繰り返し検査を受けていただくことができます。

当院では心臓や肝臓、腎臓などの腹部臓器、甲状腺などの表在臓器、頸部や下肢の血管領域の超音波検査をおこなっており、様々な疾患の早期発見と病態の正確な把握のために検査をおこなっています。

<腹部超音波検査>

胆嚢ポリープ(赤矢印)

腹部超音波検査は検査前のお食事を控えていただきます。食後は胆嚢が収縮して観察できなくなり、また胃や腸内に空気が多くなり観察しにくくなるからです。



<心臓超音波検査>

僧帽弁逆流症

心臓超音波検査に食事制限はありません。右の図は心臓が収縮する時に弁の異常が原因で左心室から左心房に血液が逆流している様子です。



(臨床検査技術部 主任臨床検査技師 一ノ瀬 加絵)

せん妄予防のために入院前からできること

「せん妄」とは、入院など生活環境が変化した時や、手術や薬剤の影響など、身体に負担がかかった時に生じる「意識の混乱」のことです。

せん妄は、一時的なもので回復しますが、予防と早期からの対応が大切です。

入院前から、「せん妄」予防のために心がけておきたいこと

1. 入院にむけて体調を整えましょう

日中の活動を増やし、夜間の睡眠がとれるようにしましょう

2. ふだんの生活に近い生活環境を整えましょう

愛用のものや、眼鏡・補聴器・義歯を使用している場合は、必ず持参しましょう

時計やカレンダーを準備して、いつでも日時を確認できるようにしましょう

家族やペットの写真など心の支えになるもののご持参も予防に効果があります

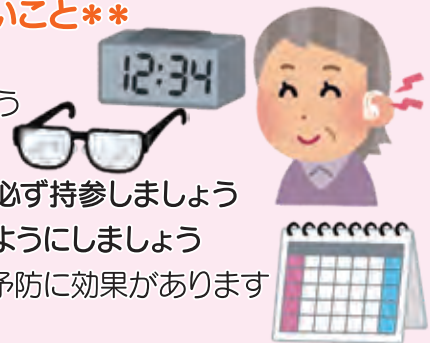
3. 入院前の生活の様子を病院スタッフにお知らせください

睡眠、食事、排泄、更衣、入浴など、自分でできることをお知らせください

ご本人の習慣や趣味、また痛みや便秘など気になっている症状なども重要な情報になります

当院では、医師、看護師、薬剤師と協力してせん妄の予防に取り組んでいます。

不安なことや心配なことがありましたら、ご相談ください。



血管撮影装置が新しくなりました



血管造影装置
Artis icono D-Spin

当院では2025年3月に血管撮影装置をシーメンス社製「Artis icono D-Spin」に更新しました。

この新装置は、従来の装置と比べて高精細な画像を得られるだけでなく、被ばく線量の低減、撮影の自由度向上、操作性の改善など、患者さん・医療スタッフのいずれにとっても多くのメリットがあります。

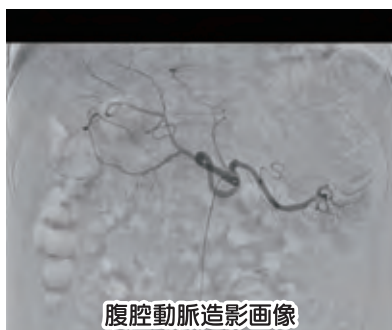
特に複雑な血管の走行や細かな構造を描き出すことに優れており、



脳血管造影画像



脳動脈瘤VR画像



腹腔動脈造影画像

脳血管や腹部血管、四肢血管などのカテーテル治療をより安全でかつ的確におこなうことができるようになりました。

今後もこの新しい装置を活用し、より正確な診断と低侵襲な治療を提供できるよう努めてまいります。

術後の食事のおはなし ～病態栄養シリーズ〈大腸がん〉～

前々回から、各種がん術後の食事について紹介しています。今回は「大腸がん」です。
基本的には食事の制限はありませんが、不溶性食物繊維（タケノコやきのこなど、筋張ったもの）や油が多いものは消化しにくく、腸閉塞の原因になる可能性があるため、術後3ヶ月はいつもより控めにしておく方が望ましいです。

《食べ方のポイント》

①一度に食べ過ぎないようにする（腹八分目に）

退院後、1～2ヶ月は段階的に食事量を増やしていきましょう。

②消化の良いものをよく噛んで食べる

煮る、焼く、蒸すなど調理方法を工夫し、よく噛んで消化吸収を助けましょう。

③ビタミン、ミネラルが不足しないようにバランス良く食べる

主食、主菜、副菜をそろえて、野菜不足にならないようにしましょう。

④水分摂取を心がける

特に下痢や便秘の時は、こまめに摂取するようにしましょう。

⑤時間を決めて規則正しく食べる

排便コントロールには規則正しい生活が重要です。

⑥腸内細菌を整える乳酸菌やビフィズス菌を含む食品を摂取する

腸内環境が整うと下痢や便秘を抑えるだけでなく、免疫力の低下を防ぎます。



当院では、月曜日から金曜日までの毎日、個別栄養食事指導を行っています。お気軽に主治医を通して管理栄養士にご相談ください。

（栄養管理部 管理栄養士 安達 悦子）

医事・相談課からのお知らせ

～マイナンバーカードを使ってみませんか～



皆さん、医療機関や薬局でマイナンバーカードを利用したことがありますか？

当院では、マイナンバーカードを健康保険証として利用できるよう顔認証付きカードリーダーを設置していますが、令和7年12月には紙の保険証の有効期限が到来するため、カードリーダーを3台増設しました。

マイナンバーカードで受診すると、保険証の確認のほかに限度額適用認定証の手続きが不要となりますので、とても便利になります。

★ 顔認証付きカードリーダー設置場所



また、保険証の確認に加えて、より質の高い医療をご提供できるよう当院では患者さんの同意の上で薬剤情報や特定検診情報などを医師が診察の場で閲覧できるようになりました。受付の際や待ち時間を利用して、ぜひ一度使ってみてください。

マイナンバーカードをお持ちでない方は、「資格確認証」をご提示下さい。



医療ネットワーク

在宅医療についてご存じですか？ ～大分県立病院と地域が支える安心の医療～

1. 在宅医療とは



病気や障がいのために通院が難しい方が、ご自宅で医療やケアを受けられる仕組みです。

当院は、在宅医療を行っている地域の在宅医（かかりつけ医）や訪問看護師に情報提供を行い、連携して診療することにより、患者さんがご自宅で診察・治療・療養支援を受けられるようサポートしています。

2. このような方が対象です

- 外来通院が困難になった
- 介護や医療が継続的に必要
- 病院から退院した後も自宅で療養したい
- 家族と一緒に安心して過ごしたい



3. 在宅医療で受けられる主な支援

- 定期的な訪問診療（体調チェック・薬の処方など）
- 症状に応じた訪問看護（点滴・傷の処置・療養相談など）
- リハビリテーション
- 往診などの緊急時の対応



4. 当院と地域の在宅（かかりつけ）医との連携体制

◆当院の役割

- 病状や治療経過の情報提供
- 必要な検査や入院のバックアップ
- 緊急時の受け入れ体制

◆地域の在宅医・訪問看護師の役割

- 定期的な訪問診療・ケア
- ご家族への支援や相談
- 必要時の当院との連絡調整

5. ご利用の流れ



1. 主治医または病院スタッフへご相談ください
2. 医療ソーシャルワーカー・看護師がご希望を伺います
3. 在宅医・訪問看護師との連携調整を行います
4. ご自宅での在宅医療が始まります

（患者総合支援センター 医療ソーシャルワーカー 楠元 緑）

外来診療一覧表

注) 診療日が変更になる場合もありますので、予めご了承ください。
(令和7年10月1日現在)

診療科	曜日	月	火	水	木	金
循環器内科		○	○	○	○	○
内分泌・代謝内科		○	○	○	○	○
消化管内科・肝胆膵内科		○	○	○	○	○
腎臓内科		○	○	○	○	○
膠原病・リウマチ内科		○	○ 新患のみ	○ 再来のみ	○	○
呼吸器内科 ※新患は要予約		○	○	○	○	○
呼吸器腫瘍内科 新患 再来	休診 ○	○	○	○	○	休診 ○
血液内科		○	○	○	○	○
脳神経内科 ※新患は要予約、 木曜日の新患は午前のみ		○	○	○	○	○
外科 消化器 乳腺	○	○	○	○	○	○
脳神経外科	手術日 休診	○	○	○	○	手術日 休診
呼吸器外科 ※事前紹介患者さん優先と させていただきます	手術日 休診	○	○	手術日 休診	○	○
心臓血管外科		○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
整形外科		○	○	○	○	○
形成外科 新患 再来	○	○	○ 予約のみ	手術日 休診	○	○
眼科 ※新患は要予約		○	手術日 予約のみ	○	手術日 予約のみ	○

診療科	曜日	月	火	水	木	金
耳鼻咽喉科 ※紹介患者さん優先と させていただきます		○	○	手術日 予約のみ	○	手術日 予約のみ
婦人科 新患 再来	○	○	休診 (要相談)	○	休診 (要相談)	○
産科		○	○	○	○	○
小児科 ※専門外来は要予約		○	○	○	○	○
新生児科		○	○	○	○	○
小児外科		○	○	○	手術日 休診	○
内視鏡科 消化管 気管支	○	○	○	○	○	○
皮膚科 ※紹介患者さん優先と させていただきます	○	○	手術日 検査日 休診	○	手術日 検査日 休診	○
泌尿器科		○	手術日 休診	○	手術日 休診	○
精神科	○	○	○	○	○	○
緩和ケア外来 (要予約)	○	○	○	○	○	○
放射線科 ※新患・再来とも要予約		○	○	○	○	○
歯科口腔外科		○	○	○	○	○
外来化学療法室		○	○	○	○	○
診療科の判断が 困難な場合の 担当診療科	消化管 内科・ 肝胆膵 内科	1・3・5週 内分泌・ 代謝内科	呼吸器 内科	脳神経 内科	血液 内科	

アクセス

大分県立病院

JR: 大分駅からタクシーで約15分または
南大分駅からタクシーで約5分
バス: 大分駅前バス停からバス・徒歩を含めて約25分
(大分市内中心部から約25分間隔で運行)
駐車場: 有料駐車場(約420台)完備(1時間まで無料)

受付時間 午前8時～午前11時
救急患者は24時間受入

診療開始時間 午前8時30分
休診日 土・日・祝日・年末年始
(12月29日～1月3日)

紹介による受診に関する事は…
地域医療連携室
平日(土・日・祝日除く)
午前8時～午後5時(受付は11時まで)
TEL 097-546-7129
FAX 097-546-7368

療養中の心配事や不安などは…
患者総合支援センター
平日(土・日・祝日除く)
午前8時30分～午後5時
TEL 097-546-7125

Oita Prefectural Hospital
大分県立病院

〒870-8511 大分市豊饒2丁目8番1号
TEL 097-546-7111～2(代表) FAX 097-546-0725 総務経営課広報担当
E-mail a80200@pref.oita.lg.jp ホームページ <https://www.oitapref-hosp.jp/>